

問題【国語】

次の言葉の意味を答えましょう。

- ① 青田買い ② 我田引水 ③ 助長



稲作文化、日本語にも影響

5月も下旬になり、田んぼには青々とした稲が見られる時期になりました。日本人は弥生時代から稲作をして、米を主食として暮らしてきました。そのため、「池田町」や「田中さん」のように「田」が入った地名や苗字もたくさんあり、「田」はとてものなじみのある文字だと言えます。また、「田んぼで力仕事をする人」から「男」、「田んぼに植える草」から「苗」といった具合に田んぼを由来にした漢字もたくさんあります。今回は、そんな田んぼや苗といった稲作文化に由来する言葉についてみていきましょう。

まず、最初の「青田買い」についてです。青田とは、青々としたまだ実っていない稲の田んぼのことです。そのまだ収穫前の田んぼの稲を見て、その出来栄えを見込んで早めに買うことを「青田買い」と言います。その意味から転じて、企業が採用活動をする際に優秀な学生に早めに内定を出すという意味でも使われますよね。「青田買い」は就職活動についてのニュースでもよく聞く言葉でなじみがあるかもしれません。

では次に「我田引水」はどうでしょうか。「我田引水」は「がでんいんすい」と読み、「我（＝自分）の田んぼにだけ水を引くこと」を意味します。他人の田んぼの水が干上がってしまうとその田んぼの稲は育たず、水を引いた自分の田んぼのお米だけが実りますよね。ここから、「我田引水」とは「自分に利益が出るように取り計らうこと」を意味する言葉になりました。

最後は「助長」です。前の二つとは違い、言葉の中に「田」の文字がなく、一見すると田んぼや苗とは無関係な言葉に思えます。この「助長」という言葉は中国の孟子が弟子にした「昔、ある農民が苗の成長を助けてあげようと、苗の茎を引っ張ったところ、苗が傷んで枯れてしまった」という話のもとになっています。この話から「助長」は「良くしようと助けた結果、かえって状況が悪くなってしまう」という意味の言葉で使われますよね。「助長」の由来を知ると日本だけでなく、中国もお米を食べる稲作文化だと改めて感じますね。

稲作文化は食文化だけでなく、日本語にも大きな影響を与えていることを見ていきました。こうした食文化以外の稲作文化の影響力の強さを思うと、農家の後継者不足などによって、田んぼが減っていることにより一層寂しさを感じてしまいますね。

【解答】

- ① 収穫前の田んぼの稲を見て、その出来栄えを見込んで早めに買うこと ② 自分に利益が出るように取り計らうこと ③ 田んぼ
- ① 収穫前の田んぼの稲を見て、その出来栄えを見込んで早めに買
- ② 自分に利益が出るように取り計らうこと
- ③ 田んぼ
- ④ 企業が採用活動をする際に優秀な学生に早めに内定を